

東北地方 1か月予報

(10月29日から11月28日までの天候見通し)

平成17年10月28日
仙台管区気象台発表

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇や雨の日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並か高い、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多い、日照時間は東北地方で平年並でしょう。

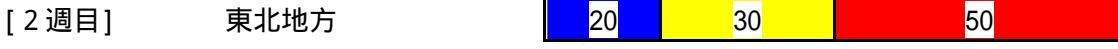
週別の気温は、1週目、2週目は高い、3~4週目は平年並でしょう。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

< 気温経過の各階級の確率 (%) >



 低い  平年並  高い

< 予報の対象期間 >

1か月 : 10月29日(土)~11月28日(月)

1週目 : 10月29日(土)~11月 4日(金)

2週目 : 11月 5日(土)~11月11日(金)

3~4週目 : 11月12日(土)~11月25日(金)

< 次回発表予定等 >

1か月予報 : 毎週金曜日 14時30分 次回は11月4日

3か月予報 : 11月24日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	8.7	108.8	145.0	10.9	9.7	7.7
新庄	6.8	198.0	68.7	9.0	7.7	5.7
若松	7.5	76.4	95.0	9.8	8.6	6.4
深浦	8.0	153.2	78.1	10.4	9.1	6.9
青森	7.0	134.9	99.5	9.5	8.0	5.8
むつ	6.8	119.0	114.9	9.2	7.8	5.7
八戸	7.2	67.7	144.1	9.6	8.2	6.0
秋田	8.1	189.0	92.8	10.5	9.2	7.0
盛岡	6.2	97.6	124.9	8.5	7.2	5.1
宮古	8.2	87.6	152.9	10.3	9.2	7.2
酒田	9.4	226.7	88.9	11.6	10.4	8.4
山形	7.7	80.7	106.5	9.9	8.7	6.6
仙台	9.6	70.2	147.8	11.8	10.6	8.6
石巻	8.8	70.3	155.6	11.2	9.9	7.7
福島	9.4	65.8	136.3	11.7	10.5	8.4
白河	8.1	66.8	152.3	10.3	9.2	7.0
小名浜	11.2	92.4	166.0	13.3	12.2	10.2

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4~+0.6	81~109	96~105
東北日本海側	-0.3~+0.5	92~107	94~105
東北太平洋側	-0.4~+0.6	69~112	96~104

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.7~+0.7	-0.6~+0.6	-0.5~+0.5
東北日本海側	-0.6~+0.8	-0.6~+0.7	-0.5~+0.4
東北太平洋側	-0.7~+0.7	-0.6~+0.6	-0.5~+0.6

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。

階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成17年10月28日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(10月29日~11月28日):

天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇や雨の日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(10月29日~11月4日):

明日(29日)から明後日(30日)は、寒冷前線や寒気の影響で曇や雨で、荒れた天気となるおそれがあります。また、高い山では雪の降る所がある見込みです。その後は高気圧に覆われて晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

2週目(11月5日~11月11日):

天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇や雨の日が多く、東北太平洋側は平年と比べて曇や雨の日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

3~4週目(11月12日~11月25日):

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となる見込みです。東北日本海側は平年と同様に曇や雨の日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

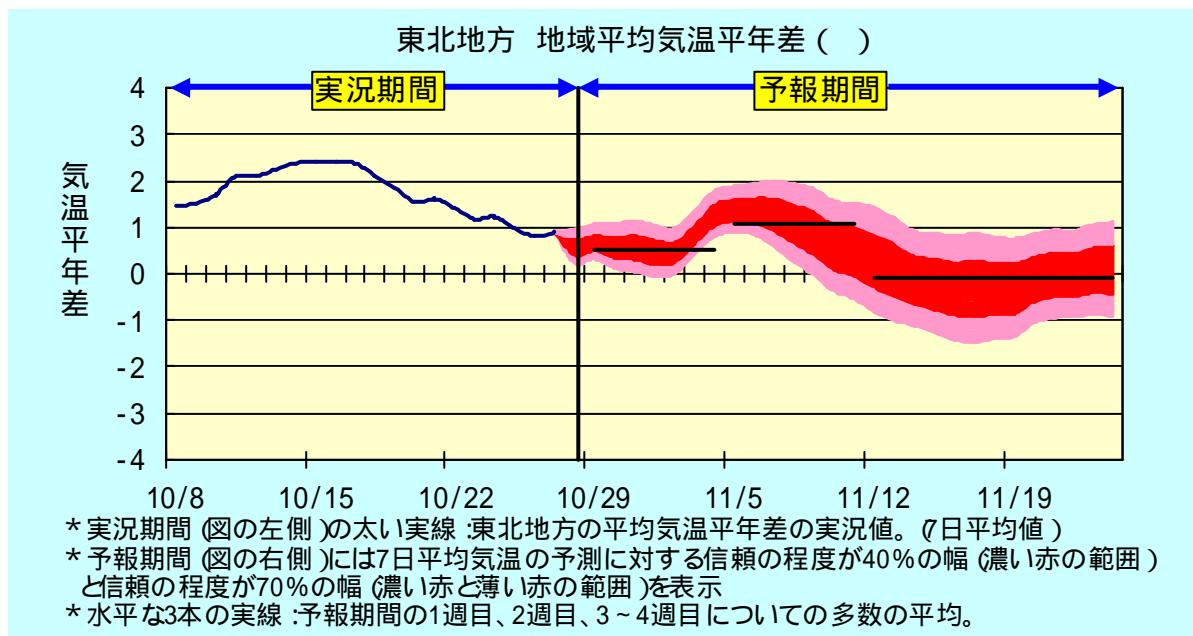
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	9.1日	2.9日	2.5日	3.7日
東北太平洋側	16.5日	4.2日	4.2日	8.1日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目は「平年並」、2週目は「高い」、3~4週目は「平年並」と予測している。予報は週間予報資料などから1週目を「高い」とする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

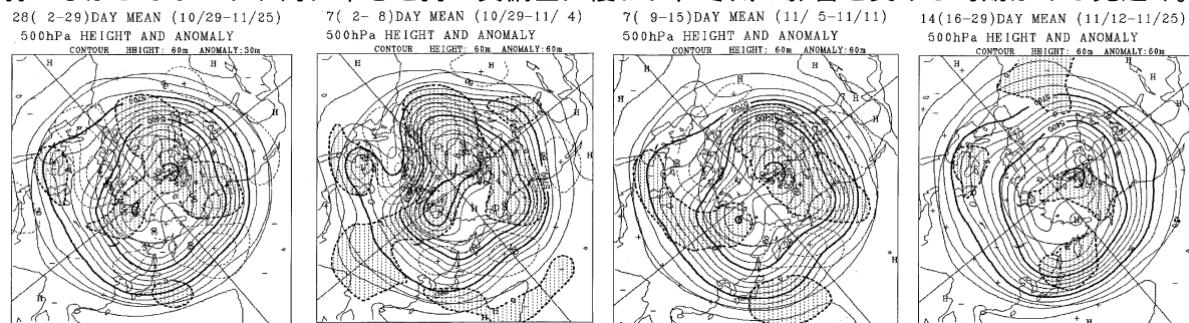


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、日本の東海上にある負偏差が一部本州にかかるが、日本付近は華北と日付変更線付近に中心を持つ東西に広い正偏差に覆われ、寒気の影響は弱い見込み。

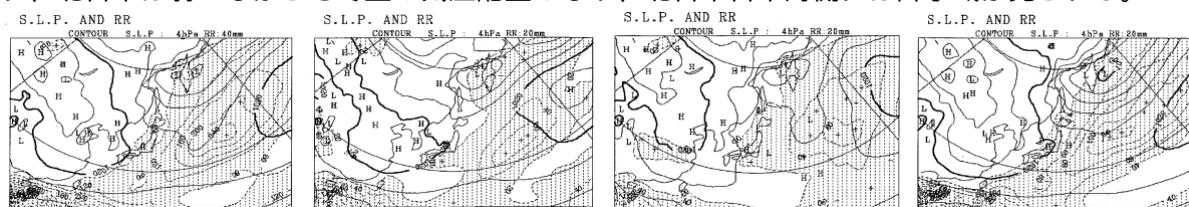
1週目は、北日本は中緯度帯に東西に広がる正偏差に覆われる。2週目は、日本の東海上の負偏差が東日本にかかるが、それ以外は中緯度帯に広がる正偏差に覆われる。3~4週目は、北日本は弱いながらオホーツク海に中心を持つ負偏差に覆われ、寒気の影響を受ける時期がある見込み。



地上気圧と降水量：

月平均では、日本付近は高圧帯に覆われる。等圧線の間隔は広く低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化する見込み。

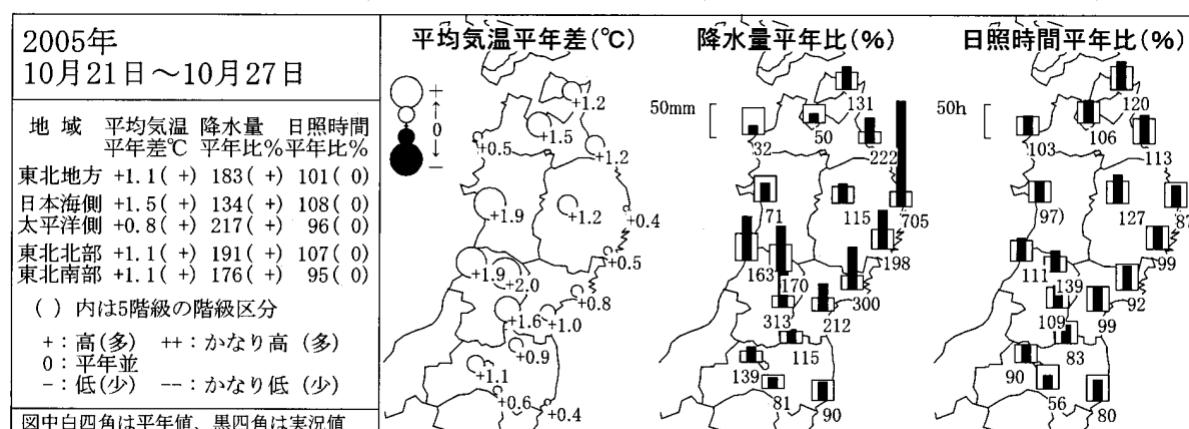
1週目は、日本付近は東西に伸びる高圧帯に覆われる。降水域は太平洋側の一部にかかる程度。2週目は、日本付近の等圧線の間隔が広がり、低気圧と高気圧が交互に通過する見込み。降水域が東日本以北全体にかかる。3~4週目は、大陸に高気圧、カムチャツカ半島付近に低気圧が見られ、北日本は弱いながらも冬型の気圧配置となり、北日本日本海側には降水域が見られる。



4. 最近1週間（10月21日～10月27日）の天候の経過

この期間、初めと終わりは高気圧に覆われ晴れるところが多かったが、22日から23日にかけて低気圧や前線が東北地方を通過したため曇や雨となった。低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定となつたため東北地方は太平洋側を中心に大雨となり、総雨量が200mmを越えるところもあった。低気圧の通過後は一時的に冬型の気圧配置となって東北日本海側では25日まで天気がぐずついた。高い山では雪となった所もあり、東北地方の各地で初冠雪を観測した。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北地方で多い。日照時間は東北地方で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)